



識己研能

No. 5
雨の七夕でした。
土砂降
気が晴れし時...
嬉 菅原(理)

校訓「己を識り、能を研く」 教育目標「知の研鑽・清澄な心・壮健な体」



環境整備作業ありがとうございました

本校 PTA 企画の早朝環境整備作業が 6 月 29 日 (土) に行われました。当日は、生徒 2 名も含め、多くの保護者の皆様にお集まりいただき、約 1 時間程度、学校周辺の草刈りや

体育館裏の草取り、校庭の石拾い、校舎道路側の窓拭き作業等をしていただきました。草刈り機械の持ち寄りにより効率よく作業を進めていただいたおかげで、みちがえるようにさっぱりときれいになりました。また、当日来られない方や時間に都合のつかない方の中には事前に草刈りをしてくださった方もあり、有難いことだと感謝するとともに、その心持ちに学ばせていただきました。

休日にもかかわらず、早朝より作業をしていただいた生徒・保護者の皆様に、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。学校として、これからも教育環境の整備に努めてまいります。



第1回学校運営支援協議会



去る 6 月 7 日 (金)、一関東中第 1 回学校運営支援協議会が開かれました。本校では本年度新たに協議会を立ち上げるということで、会に先立ち、校長が、「子どもたちが生きる新しい時代の教育」と「本校の生徒の様子」について、プレゼンテーションを行いました。その後、学校運営支援協議会の趣旨説明、役員選出、そして本年度の学校運営基本方針とまなびフェスト、および教育についてのアンケートの承認をいただきました。

少子高齢化による急激な人口減少の中、ものすごいはやさで進んでいる情報化、国際化 (グローバル化)、産業構造の変化...といった中を生きていく子どもたちにどんな力が必要なのか、大人にはどのようなことができるのか、当事者として「熟議」を通し探っていく予定です。

- 会 長 佐々木奈々さん (一関東中学校 PTA 会長)
- 副会長 佐々木一男さん (一関東中学校元学校評議員)
- 菅原 理日 (一関東中学校校長)
- 事務局 小林 義幸 (一関東中学校副校長)
- 委 員 佐々木悦子さん (一関東中学校元学校評議員)
- 佐々木春枝さん (一関東中学校元学校評議員)
- 吉田 聖樹さん (牧沢神楽保存会代表)
- 佐藤 徹 さん (富沢神楽保存会代表)
- 鈴木 征子さん (真滝地区主任児童委員)
- 尾形 正代さん (弥栄地区主任児童委員)
- 菅原 勝 さん (滝沢地域振興協議会代表)
- 木村 篤 さん (弥栄地区まちづくり協議会副会長)
- 千葉 登美さん (真滝幼稚園長)

第1回 英語検定

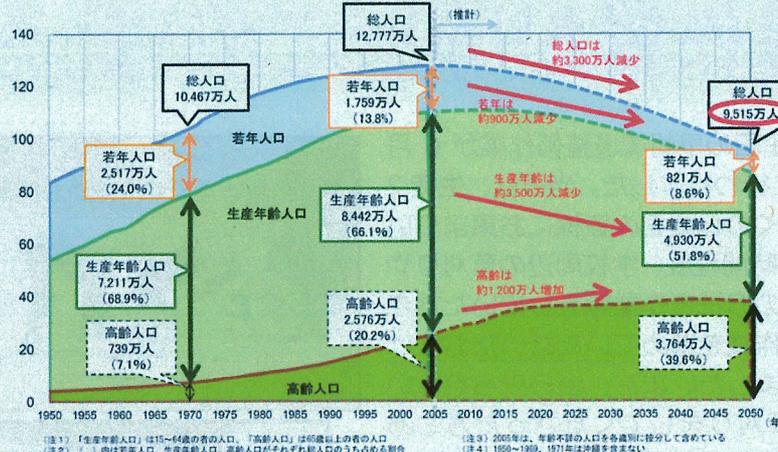
5 月 31 日 (金) に行われた英語検定の結果が発表になりました。第 1 回目今回は、3 級合格者が 1 名、4 級合格者が 3 名でした。

グローバル化社会を生きる子どもたちにとって、英語力は重要なツール (道具)。市では毎年、外国語指導助手 (ALT) の学校訪問、「英語の森キャンプ」、中学校英語基本文力試しなどの事業を行っています。

また、市では、英検取得の奨励のため、1 人につき 1 回、検定料の補助を助成しています。英検第 2 回は 9 月末~10 月初めのどこか、第 3 回は 1 月に実施予定です。たくさんのチャレンジを期待しています。

新しい時代の教育① 子どもたちが生きる未来

○ 我が国の総人口は、2050年には9,515万人となり、約3,300万人(約25.5%)減少。
○ 高齢人口が約1,200万人増加するのに対し、生産年齢人口は約3,500万人、若年人口は約900万人減少。その結果、高齢化率は約20%から約40%に上昇。



出典：総務庁 HP https://www.soumu.go.jp/main_content/000273900.pdf

親ならば当然、我が子の幸せを願います。私たち教職員もそうです。毎日の学校生活の積み重ねの中で、子どもたちの成長の芽、可能性の芽を見つけては喜び、その芽が伸びるよう、様々な形や方法で指導・支援をします。「この励ましよ、届け!」「自分を信じて!」と願いながら。

しかしながら、教育はすぐ目に見えて大きな変化をもたらすものばかりではありません。子どもひとり一人の発達段階や性質などにより、成長のペースは様々だからです。

人は、「自分が変わりたいと思った時に変わり」ます。いくら素晴らしいアドバイスをいただいたところで、本人が望まなければ変わるはずなどありません。大切なのはその人自身の「**当事者意識**」であり、「**主体性**」です。

自己決定なくして当事者になれるはずはありませんし、主体的な考えを持つことはできません。先回りをし過ぎたり、子どもをコントロールし過ぎたりしないよう、まず私たち大人が自らを律する。私たちも、**子どもが安心して自己決定できるよう、普段から「考える力」を育てていきたいもの**です。



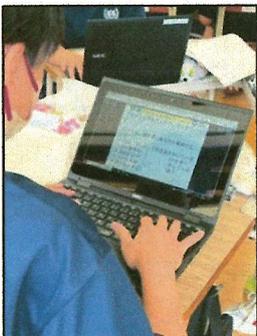
予測不可能な時代を生き抜く力とは？

「少子高齢社会」「急速な人口減少」「情報化 (ICT、AI、シンギュラリティ)」「国際化 (グローバル化)」「多様性」「産業構造の急速な変化」「終身雇用制や年功序列賃金制の崩壊」…今の子どもたちは、私たち大人も経験したことのない「**予測不可能な時代**」を生きることになります。

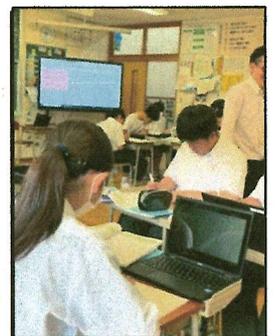
校報第2号でも書きましたが、我が子の成長を願うなら、私たち大人は我が子だけでなく、我が子の周りの子の成長も支えるのがいいのだと思います。なぜなら、人は環境の中で育つからです。

予測不可能な時代を生き抜く…イメージは「最小公倍数」。それぞれが「**違う**」ことを前提に、「**当事者意識**」をもって「**主体的**」に考え動く。物事を進める際には、相手を「**思いやり**」ながら利害や対立を調整し、**落としどころ**（「**最適解**」「**納得解**」）を探る。

次号では、子どもたちの生きる道（進路）について考えてみたいと思います。



★子どもたちは日常の授業の中で、鉛筆同様、学習用具の一つとしてタブレットを活用しています。インターネットを使って調査したことをまとめたり、大型モニターを使って友達と協働学習をしたりと便利です。その一方で、復習する時には、教室の中が3つに分かれます。[紙派 (ワーク、ノートなど)、タブレット派 (各種学習コンテンツ)、そして二刀流派 (紙・タブレット併用)]それぞれが自分に合う方法を選んで学習を進めます。(書くことで身に付く生徒は多いです。)



世界がぜんたい幸せにならないうちは 個人の幸福はあり得ない 宮沢賢治：『農芸芸術概論要綱』